

## ➤ 28日 土曜

### I サムエル

3:15 サムエルは朝まで寝て、それから

【主】の家の扉を開けた。サムエルは、この黙示のことをエリに知らせるのを恐れた。

3:16 エリはサムエルを呼んで言った。「わが子サムエルよ。」サムエルは「はい、ここにおります」と言った。

3:17 エリは言った。「主がおまえに語られたことばは、何だったのか。私に隠さないでくれ。もし、主がおまえに語られたことばの一つでも私に隠すなら、神がおまえを幾重にも罰せられるように。」

3:18 サムエルは、すべてのことをエリに知らせて、何も隠さなかった。エリは言った。「その方は【主】だ。主が御目にかなうことをなさるように。」

3:19 サムエルは成長した。【主】は彼とともにおられ、彼のことばを一つも地に落とすことはなかった。

3:20 全イスラエルは、ダンからベエル・シェバに至るまで、サムエルが【主】の預言者として堅く立てられたことを知った。

3:21 【主】は再びシロで現れた。【主】はシロで【主】のことばによって、サムエルにご自分を現されたのである。

エリは霊的に鈍ってはいましたが、また息子たちを正しく育てることができないでいましたが、自分自身は主を恐れる者でした。「その方は主だ。主が御目にかなうことをなさいますように。」とは、潔いことばです。人間は主の全能の力ときよさの前には何も偽ることはできないのです。

エリがサムエルを怒ったり憎んだりしなかったことは評価されるべきでしょう。その態度はサムエルを正しく育てることにつながり、ひいてはイスラエ



ルに良い影響を与えたのです。たとえ自分には辛いことでも、主の判断を甘んじて受けることは信仰の姿勢です。(ただし、エリはもっと以前に、子育てにおいてそのような姿勢を持つべきでした。)

サムエルは預言者として認められましたが、それは自分で預言者となったのではなく、「主は彼とともにおられ、彼のことばを一つも地に落とされなかった。」からです。人が主の働き人になるのは、自分で決めるのではなく、主の召しと導きがあってこそです。

そのように人が、人生における歩みや職業や立場といういものも、主によって与えられるものです。勝手に歩いてきてはいないか吟味する必要があります。またこれからは、主の御心を求めていきましょう。

①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど)

②どんな思いになりましたか？(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？

